

発行所 全日本建設交運一般労働組合
栃木県本部
〒327-0315
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1
0283-62-7312 fax 0283-62-7318
E-mail: DQJ06744@nifty.com

CTGの建交労とちぎ

東京オリパラ関連建設工事で働く建設労働者に適正な労働条件が確保されるかどうか、今後の建設産業にとって試金石です。組合では関係団体と共闘し継続して実態調査などに取り組みます。

小池百合子知事「ゼネコンファースト」ではないでしょうか？ 東京オリンピック関連工事での労働実態調査を

50キロ道路を80キロで「スタンプ」運行

二〇二〇年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」関連工事が始まっています。

東京都が整備する事業のなかで大規模なのが水泳競技会場となる「アクアティクスセンター」(江東区元請大林組他)。

組合では七月上旬、発生土の搬出が始まったことを確認し現場調査を実施しました。

発生土は東京湾中央防波堤にダンブでピストン輸送しています。ところが、多くのダンブが制限速度50キロ道路を80キロを超え



建設が進められているアクアティクスセンター工事現場

る猛スピードで運行



「都民ファースト」(都民を第一に考える)を主張する小池知事。都民を重大事故の危険にさらす安全管理のできないゼネコンに約500億の工事を発注。

信号無視や進路変更違反も複数回確認された

大惨事となる海底トンネル内でも大幅な速度超過が常態化しています。

東京都は工事前、都民から寄せられた工事関係車両に対する不安にたいして「運転者に対する安全運転指導を徹底させ交通安全に努めます」(意旨見解書)と説明しています。過密運行の背景には運搬回数のノルマ化

ど、厳しい労働条件の問題が考えられます。

一台のダンブが一日に運べる土量が多いほうが工事費の削減につながります。元請ゼネコンが下請業者を買いたたき、末端のダンブが過密運行を強いられる・・・。

このままでは工事が本格化する秋以降さらに重大事故の危険が高まります。

建交労都本部と関東ダンブでは東京都にたいして実態調査、労働条件の確保を求めます。

なにを世界に誇るのか

今後各地でオリンピック関連工事が本格化します。マスコミが取り上げるのは予算問題が中心です。

圧縮された予算のなかで、労働者がどのよ

「担い手3法」の制定

そして昨年は一人親方も含めた「建設工事従事者の安全及び健康の確保の推進に関する法律」の成立と様々な施策を講じてきました。しかし現場の実態は改善されていません。

世界が目にするオリンピックという国家的大事業のなかでさえ、建設労働者が適正な労働条件で働けない。この現実を放置して東京五輪を世界に誇る「レガシー(遺産)」と言えるでしょうか。



過積載も確認された東京五輪メイン会場となる新国立競技場建設現場

原発事故の影響は「コントロールされている」と大ウソをついて五輪招致を訴えた安倍首相。

